

第4章 通常の学級における配慮を必要とする 子どもたちへの支援

第4章 通常の学級における配慮を必要とする 子どもたちへの支援

はじめに

LD・ADHD・高機能自閉症等の子どもたちは、学校生活の多くの時間を通常の学級で過ごしている。しかしながらこれらの子どもたちが通常の学級の中で過ごすにあたって、様々なニーズを抱えていることも多い。このような子どもたちに対して、通常の学級の担任教師が、学級の中で様々な配慮をすることは、このような子どもたちが心地よく、分かりやすく生活できるようになるだけではなく、学級全体の雰囲気作りや運営面にもよい影響を与えると思われる。

そこで、第3章で整理された通常の学級における指導内容・方法や本研究の一環で作成した「指導ガイド」（独立行政法人国立特殊教育総合研究所，2004）に示されている指導内容・方法、外国の文献等を参考にして、通常の学級における配慮項目のリストを作成した。これらの配慮項目を通常の学級の担任教師は実践しているのかどうか、その子どもの特性に応じた配慮にはどのようなことが行われているのかについて調査し、その結果を踏まえて配慮リストの作成を行った。

本稿では、配慮リスト作成に至るまでの二つの調査の内容と結果、作成した配慮リスト及びそのリストを使用した通常の学級の担任教師の感想を報告する。

1. 通常の学級での配慮の実態に関する調査（調査1）

（1）目的

今日、通常の学級では、LD・ADHD・高機能自閉症等の子ども（以下、「LD等の子ども」と略す）をはじめとして、様々な教育的ニーズのある子どもが在籍している。そのため、学級担任には、教材・教具、課題の分量や提示方法、評価の基準、学習の集団の大きさ、テストの手続きなど、を子ども個々人のニーズにあわせて調整していくことが望まれる。

LD等の子どもの教育において、このような配慮の実施は不可欠な要件であるが、学級担任がどのような配慮を、どの程度実施できるのか、その実態はわが国ではあまり知られていない。この調査では、LD等の子どもに実施されている配慮の内容を整理し、小学校の学級担任を対象にして（a）学級担任が感じている配慮の実施の容易さ（配慮の容易さ）、（b）配慮の実施状況（実施状況）、（c）配慮を実施するための要件（実施要件）、を明らかにすることを目的とした。

（2）方法

① 調査対象

5つの県からそれぞれ小学校21校を抽出し、合わせて105校の通常の学級担任（以下、「学級担任」と略す）に調査を依頼した。ただし、学校の抽出に際しては学校規模によるサンプルの偏りを調節することを前提とした。そのため、それぞれの県における小規模校（各学年1学級）、中規模校（各学年2学級）、大規模校（各学年3学級以上）の比率を3：2：1に操作している。調査の依頼に対して応答があった56校（回収率53.5%）から502名の学級担任の回答を得た。本研究では、このうち下記に述べる通常の学級における配慮の項目すべてに回答した411名のデー

タを分析に利用した。

② 調査票

調査用紙については、資料として添付した（資料1）。

ア. 通常の学級における配慮の項目

まず、LD等の子どもに関する我が国の実践報告（神戸市立本山中学校，2004；大坂府吹田市立吹田第二小学校，2003；北海道立特殊教育センター，2004a；2004b 熊本市立慶徳小学校，2004；京都府教育委員会，2004；東京都文京区立駒本小学校，2004）や関連する文献（Blazer，1999；国立特殊教育総合研究所，2005）から、通常の学級において実施されている配慮項目を抽出した。次に、予備調査を行い、不適切な表現や内容を修正して、さらに、KJ法により項目を分類してLD等の子どもへの配慮に関わる内容が残らず含まれているかを確認し、必要に応じて項目数を調整した。最終的に、項目は「聞く」「話す」「読む」「書く」「推論する・計算する」「不注意」「情緒面・行動面」「作業・領域全般」「条件整備」の9つのカテゴリについての68項目となった（資料2）。

イ. 配慮の容易さ、実施状況、実施要件

配慮の容易さについては、以上の68のすべての項目に対して、その配慮を容易に実施することができるかを尋ねることにより測定した。回答は1～4点（難しい、やや難しい、やや容易、とても容易）の4件法で評定を求めた。

実施状況については、配慮の容易さについての質問の評定が3～4点の人—配慮の実施が容易だと感じている人—を対象にし、回答は、単一回答法によりカテゴリ化した（1. 全ての児童を対象として現在配慮している、2. 気になる児童を対象として現在個別に配慮している、3. 実施していない）。

実施要件については、配慮の容易さについての質問の評定が1～2点の人—配慮の実施が難しいと感じている人—を対象とし、回答は複数回答法によりカテゴリ化した（1. 空き教室、支援機器、その他の備品や設備などの物的条件の整備があれば実施することができる、2. 教材の準備などの時間的条件の整備があれば実施することができる、3. TTなど人的条件があれば実施することができる、4. 保護者や児童、管理職、教員等の共通理解があれば実施することができる、5. 1～4の条件を整えても通常の授業の中では難しいが、通級指導教室や放課後の個別指導であれば実施することができる）。

ウ. 学級担任の属性

学級担任の属性として以下の変数を調べた。

- (a) 教職年数
- (b) 特殊教育担当経験
- (c) 担当学級における学年（学年）
- (d) 児童数
- (e) 通級指導教室もしくは特殊学級から支援を受けている児童数（通級等児童数）
- (f) (e)を除く、気になる児童数（気になる児童数）
- (g) ティームティーチングや介助員の利用（TT等利用）

- (h) 授業準備や教材研究に費やしている時間（準備・研究時間）
- (i) 授業準備や教材研究に費やしている時間に対する満足感（準備・研究時間の満足感）
- (j) 職場でのサポート（サポート）

回答は、人数、年数、及び学年については数字の記入を求めた。また、特殊教育担当経験（ある、ない）やTT等利用（いる、いない）、準備・研究時間（1時間以下、2～3時間、4～5時間、6～7時間、8時間以上）、準備・研究時間の満足度（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）については単一回答法によりカテゴリ化した。サポートは井田、福田（2004）の尺度を一部修正して、回答方法には1～4点（そう思わない、あまりそう思わない、ややそう思う、そう思う）の4件法を用いた。

③ 調査の手続き

調査は2005年2～3月に郵送法による無記名方式で行った。依頼文書、調査票、返信用封筒をそれぞれの学級担任が所属する学校長宛てに送付し、調査の実施と調査票の回収を依頼した。

（3）結果と考察

① 学級担任の属性

分析対象となった学級担任の属性を表1に示した。教職経験年数の平均は14.5年（ $SD=7.81$ 、範囲1-34、 $n=405$ ）、学級の児童数の平均は28.3名（ $SD=7.35$ 、範囲4-42、 $N=411$ ）、通級等児童数の平均は0.3名（ $SD=0.55$ 、範囲0-3、 $n=328$ ）、気になる児童数の平均は2.1名（ $SD=1.98$ 、範囲0-11、 $n=340$ ）であった。サポートについては、主因子法による因子分析を行った結果、固有値1以上の基準で1因子が抽出されたため（寄与率=57.6、因子負荷量 >0.72 、 $\alpha=0.91$ ）、尺度のすべての項目を加算平均し、職場でサポートを受けていると感じているほど高得点になるように得点化（1～4点）した。このサポート得点の平均は3.1点（ $SD=0.59$ 、範囲1.1-4.0、 $n=409$ ）であった。

表1 学級担任の属性

		N
特殊教育担当経験	有	96
	無	313
担当学級における学年	1年	74
	2年	73
	3年	74
	4年	76
	5年	58
	6年	56
チームティーチングや介助員の利用	有	163
	無	234
通級指導教室もしくは特殊学級から 支援を受けている児童	有	71
	無	257
気になる児童	有	258
	無	82
授業準備や教材研究に費やしている時間 (週当たり)	1時間以下	23
	2～3時間	120
	4～5時間	139
	6～7時間	67
	8時間以上	55
授業準備や教材研究に費やしている時間 に対する満足度	そう思う	9
	ややそう思う	23
	あまりそう思わない	205
	そう思わない	174
		N=411

② 配慮の容易さ

それぞれの配慮の項目に対する評定を得点化した。これを本調査では容易度得点と呼ぶ。容易度得点は1～4点の範囲で、配慮の実施が容易であるほど高い値になるようにした。表2には、項目ごとに容易度得点の平均と標準偏差を示した。最も高い平均得点は「授業で使うノート、教材、文房具など最低限必要なものを机の上に用意させる」の3.6点、最も低い平均得点は「テストの回答に代筆者やテープレコーダー、パソコンなどの使用を認める」の1.8点で、両者の容易度得点の差は顕著であった。このことは、配慮の内容によって実施の容易さが異なることを示している。

また、容易度得点の平均が高いものの中には、「授業で使うノート、教材、文房具など最低限必要なものを机の上に用意させる」、「名前を呼んだり、声かけをしたり、目を合わせたりして、注意を引きつける」、「約束ごとが守れたり、望ましい行動をとれたりしたときには、すぐにほめる」など、活動の準備や予告、または、賞賛や注意喚起の工夫により、学級の活動に対する動機付けを高めたり、適切な行動を促したりする項目が含まれた。それに対して、容易度得点の平均が低いものの中には、「テストの回答に代筆者やテープレコーダー、パソコンなどの使用を認める」、「ノートをとる代わりにテープレコーダーやノートのコピー、パソコンを利用するなどの方法を認める」、「予め板書の内容をプリントなどにして渡しておき、手元におかせる」など、通常はすべての子どもが利用しないような新しい教材や設備／備品を必要とする項目が含まれた。このことは、学級担任が、実施が容易、あるいは困難と感じている配慮の内容の特徴を示している。

表2
容易度得点

No	項目	M	SD
24	授業で使うノート、教材、文房具など最低限必要なものを机上に用意させる	3.59	0.54
19	名前を呼んだり、声かけをしたり、目を合わせたりして、注意を引きつける	3.58	0.60
42	約束ごとが守れたり、望ましい行動をとれたりしたときには、すぐにほめる	3.58	0.57
13	板書の書式（左から右へ書くなど）をきめておく	3.50	0.68
64	グループを編制する際には、メンバーに留意する	3.44	0.63
1	あたりまえのことであっても適切な行動（いすに座っている、大声を出さないなど）が出来ていたら言葉で誉める	3.44	0.58
52	子どもが話そうとしていることを適切なことばで表現したり、補ったりする	3.42	0.58
28	教師のそばの座席にしたり、落ち着いた子どもの間にするなど座席の位置を工夫する	3.40	0.64
38	何についての作文を書くか事前に予告しておく	3.36	0.65
50	守るべきルールや約束ごとのいくつかを子どもと相談して決める	3.33	0.64
6	子どもどうしが互いの良さを認め合う機会をつくる	3.33	0.62
12	提出期間・テスト時間を長したり短くしたりして調節する	3.32	0.69
5	マス目のある用紙を使用し、問題を写したり、計算したりするときの位取りを分かりやすくする	3.27	0.74
14	指示や教示を行うときには近くで行い、必要があれば肩などに手を置いて行う	3.20	0.72
61	テストの解答において許容度をひろげる（例：漢字のとめ、はねなど）	3.19	0.70
43	他の子どもたちにその子の特性について理解してもらえるように工夫して伝える	3.16	0.75
32	プリントや教材を整理するための箱やかごを用意する	3.14	0.68
25	話の見通しを持たせるために、予め要点をあげる	3.14	0.78
44	シールなどによるポイント性を取り入れる	3.13	0.77
48	話をするときには、指示代名詞を使わないで、具体的に、短く、はっきり、ゆっくり、繰り返し話す	3.12	0.65
56	「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」という疑問詞を提示し、それにあわせて話をさせる	3.09	0.70
54	形の特徴や位置の関係などなるべく言葉で説明を加えるようにする	3.06	0.68
3	子どもの特性を踏まえて役割を分担する	3.04	0.62
15	問題行動への対処の仕方などを予め決めておき一貫した態度や行動をとる	3.04	0.67
51	作業や課題は一度に達成することが可能な量になるように小さなまとまりに分ける	3.04	0.79
63	混乱したときどうすればいいのかを伝える（困った時は周囲の助けを呼ぶ、かっとならその場を離れるなど）	3.03	0.74
17	書きやすいペンや鉛筆、消しやすい消しゴムを利用させる	3.03	0.71
36	子どもの話をじっくりと話を聞き、子どもが話した内容についてそのポイントを整理して確認する	3.02	0.74
65	漢字の構成要素（へんやつくり）を色分けして示したり、部首の意味を教えたりする	2.99	0.79
37	問題や宿題の量を子どもに合わせて少なくする	2.99	0.78
59	視覚的な手がかり、もしくは具体物を使って教える	2.98	0.78
8	事前に読むところを伝え、家で練習してもらう	2.98	0.73
67	黒板に指示内容を書いたり、話に関係のある絵を用意したりする	2.95	0.79
16	道具を使うときは手を添えて使い方を教える	2.94	0.78
21	テストの時に、読むことが苦手な子どもに対して問題文を読み聞かせ内容を伝える	2.92	0.77
30	漢字にふりがなをふる	2.92	0.79
40	予定を変更する場合は、直前になって知らせるのではなく、事前に伝え、変更後の予定を視覚的に確認できるように明示する	2.91	0.80
11	定規やコンパスは使いやすい大きさのもの、メモリの見やすいものを使用させる	2.90	0.79
34	少人数の授業（ペアやグループ学習など）の時間を設ける	2.90	0.90
10	活動にメリハリをつけて（例えば、穏やかなものとアクティブなものを準備したり、途中で体を動かす活動を入れたり、休憩をいれたり、板書消しやプリント配りなどの役割を与えたり）授業を構成する	2.89	0.78
9	要点やキーになる言葉や読み間違え言葉などに印をつけて提示する	2.84	0.77
41	話の内容や重要なポイントが理解できているかどうか個別にきいたり、言語化させたりして確認する	2.84	0.78
2	発表の時には、あらかじめ話すことを書いておいてから発表させるようにする	2.82	0.75
57	写真など、作文を書くときの手がかりを用意する	2.82	0.75
68	文章の大事どころや段落の関係について、絵、写真、図、文字、もしくは実際の動作を利用して、理解させる	2.81	0.75
18	課題のどこから始めるのか、どこまで終わったのかを分かりやすくするために、付箋を付けたり、シールをはったりするなどの目印をつける	2.81	0.83
29	メモをとるようにさせ、メモをなくさないように置き場所をきめて確認する。	2.77	0.80
55	子どもが話しやすいように、いくつかの選択肢を示したり、実物や写真や絵などを用意する	2.70	0.80
60	混乱を引き起こす原因やもの（大きな音や声、ざわざわした雰囲気、注意を引く刺激など）を可能な限り取り除く	2.69	0.76
46	ノートのマス目の大きさや罫線の幅、プリントの文字などを拡大する	2.68	0.90
20	単語ごと（もしくは文節ごと）に横線を入れたり、分かち書きにしたりする	2.66	0.84
26	ITを活用した授業を計画する	2.64	0.94
35	子どもが意欲的に取り組める教材（興味を引く教材、見やすい教材、図や絵などを取り入れた教材）を作成する	2.64	0.75
53	個別の指導の時間を設ける	2.61	0.85
4	教科書の字を拡大する	2.57	0.96
66	授業のとき掲示板にカーテンを引くなどして刺激を調節する	2.54	0.83
49	テストの用紙を拡大したり、問題用紙に載せる問題数を少なくする	2.54	0.96
7	注目を引くために起こしている大声を出す、席を離れるなど不適切な行動については反応しない	2.51	0.96
62	課題の手順、作業の終了、約束事、必要な物などについて、文字や絵などでリストを作成し、随時確認できたり、ふり返ったりできるようにする	2.50	0.77
27	スリットをあけた厚紙をつかったり、定規・指をあてることで他の行を見えないようにして読んだり、書いたりさせる	2.47	0.84
45	活動内容や課題の難易度を子どもに合わせて用意し、子どもが選択できるようにする	2.46	0.77
23	ポイントを利用して黒板に注意を向けやすいようにする	2.40	0.99
33	落ち着いて学習したり、混乱したときに落ち着ける空間を準備する	2.35	0.89
47	作業がしやすいように、大きめの机を用意したり、立って作業できる場所を設定したりする	2.22	0.87
31	予め板書の内容をプリントなどにして渡しておき、手元に置かせる	2.17	0.83
22	言葉の意味を調べるとき電子辞書の使用を認める	2.08	0.97
58	ノートをとる代わりにテープレコーダーやノートのコピー、パソコンを利用するなどの方法を認める	1.96	0.87
39	テストの回答に代筆者やテープレコーダー、パソコンなどの使用を認める	1.83	0.88

③ 実施状況

先述したように、実施状況については、配慮の容易さについての質問の評定が3～4点の人—配慮の実施が容易だと感じている人—に回答を求めた。それぞれの配慮の項目において、実施状況の各カテゴリに対する回答度数、及びその相対度数（各カテゴリの回答度数/すべての回答度数×100）を配慮項目ごとに算出した。表3にはその結果を示した。例えば、項目6（「子ども同士が互いの良さを認め合う機会をつくる」）についてみると、カテゴリ1（全ての児童を対象として現在配慮している）に回答した人は339名、カテゴリ2（気になる児童を対象として個別に配慮している）に回答した人は33名、カテゴリ3（実施していない）に回答した人は6名で、その相対度数はそれぞれ89.7%、8.7%、1.6%であることがわかる。これは、実施が容易と感じている学級担任の89.7%が全ての児童を対象として項目6の配慮を実施していることを意味している。

表3に示すように、68の配慮項目のうち、カテゴリ1へ回答した人が多かった項目は44項目、カテゴリ2へ回答した人が多かった項目は11項目、カテゴリ3へ回答した人が多かった項目は13項目であった。このことは、配慮の実施が容易だと感じている学級担任は、多くの配慮の項目を、個別にではなく、全ての児童を対象として実施していることを示している。他方で、カテゴリ3へ回答した人が多かった13の配慮項目については、実施が容易だと感じている学級担任の多くが、実際には実施していないことが示された。これらの項目には「言葉の意味を調べるとき電子辞書の使用を認める」、「テストの回答に代筆者やテープレコーダー、パソコンなどの使用を認める」、「ノートをとる代わりにテープレコーダーやノートのコピー、パソコンを利用する」、「教科書の字を拡大する」、「予め板書の内容をプリントなどにして渡しておき、手元に置かせる」など、通常はすべての子どもが利用しないような新しい教材の準備や設備／備品を必要とする内容が多く含まれていることを考慮すると、上記のような主観と行動との間にギャップが生じた理由として次のようなことが考えられる：(a) 実際には新しい教材の準備時間や設備／備品がないために実施できない；(b) 支援を個別化する必要があるために通常の学級では実施しにくい。また(c) 有効な配慮として認識されていないために実施していない、という理由も考えられる。

表3
実施状況の各カテゴリに対する回答度数

項目No	回答カテゴリ		
	1	2	3
1.「全て児童を対象として配慮している」の回答が多い			
6	339 (89.7)	33 (8.7)	6 (1.6)
24	343 (87.9)	31 (7.9)	16 (4.1)
35	198 (83.2)	29 (12.2)	11 (4.6)
34	228 (82.0)	27 (9.7)	23 (8.3)
13	308 (82.1)	17 (4.5)	50 (13.3)
42	315 (80.2)	67 (17.0)	11 (2.8)
67	227 (77.2)	24 (8.2)	43 (14.6)
36	251 (77.5)	59 (18.2)	14 (4.3)
68	187 (72.5)	29 (11.2)	42 (16.3)
50	277 (74.1)	64 (17.1)	33 (8.8)
10	211 (70.1)	43 (14.3)	47 (15.6)
38	260 (69.5)	35 (9.4)	79 (21.1)
26	155 (68.3)	35 (15.4)	37 (16.3)
25	232 (68.2)	52 (15.3)	56 (16.5)
59	210 (68.4)	71 (23.1)	26 (8.5)
64	263 (68.1)	92 (23.8)	31 (8.0)
43	236 (66.5)	81 (22.8)	38 (10.7)
52	253 (64.9)	126 (32.3)	11 (2.8)
65	192 (64.0)	32 (10.7)	76 (25.3)
19	253 (64.4)	124 (31.6)	16 (4.1)
44	222 (62.4)	100 (28.1)	34 (9.6)
60	155 (62.8)	44 (17.8)	48 (19.4)
40	185 (61.7)	36 (12.0)	79 (26.3)
5	210 (60.7)	74 (21.4)	62 (17.9)
55	137 (57.3)	46 (19.2)	56 (23.4)
1	214 (56.2)	140 (36.7)	27 (7.1)
57	146 (54.5)	44 (16.4)	78 (29.1)
54	192 (56.3)	95 (27.9)	54 (15.8)
51	176 (51.9)	98 (28.9)	65 (19.2)
48	174 (52.7)	45 (13.6)	111 (33.6)
15	171 (52.6)	116 (35.7)	38 (11.7)
3	179 (52.2)	140 (40.8)	24 (7.0)
32	167 (49.9)	41 (12.2)	127 (37.9)
12	186 (50.3)	157 (42.4)	27 (7.3)
17	154 (49.8)	54 (17.5)	101 (32.7)
2	141 (49.8)	92 (32.5)	50 (17.7)

項目No	回答カテゴリ		
	1	2	3
2.「気になる児童を対象にして個別に配慮している」の回答が多い			
45	89 (49.7)	63 (35.2)	27 (15.1)
56	170 (49.3)	64 (18.6)	111 (32.2)
11	127 (45.0)	41 (14.5)	114 (40.4)
47	56 (45.5)	17 (13.8)	50 (40.7)
66	91 (45.7)	16 (8.0)	92 (46.2)
62	83 (42.8)	47 (24.2)	64 (33.0)
9	125 (43.7)	78 (27.3)	83 (29.0)
8	113 (37.8)	90 (30.1)	96 (32.1)
3.「実施していない」の回答が多い			
53	71 (34.1)	132 (63.5)	5 (2.4)
14	101 (29.1)	207 (59.7)	39 (11.2)
16	88 (29.6)	178 (59.9)	31 (10.4)
21	40 (13.1)	181 (59.3)	84 (27.5)
28	100 (26.7)	223 (59.6)	51 (13.6)
37	62 (20.1)	162 (52.6)	84 (27.3)
61	116 (32.7)	183 (51.5)	56 (15.8)
7	60 (28.4)	103 (48.8)	48 (22.7)
41	124 (44.1)	126 (44.8)	31 (11.0)
63	108 (31.9)	143 (42.2)	88 (26.0)
30	67 (22.4)	127 (42.5)	105 (35.1)
22	5 (3.8)	10 (7.7)	115 (88.5)
39	8 (9.8)	12 (14.6)	62 (75.6)
58	16 (17.4)	7 (7.6)	69 (75.0)
4	49 (23.0)	21 (9.9)	143 (67.1)
31	25 (20.3)	18 (14.6)	80 (65.0)
49	31 (15.0)	48 (23.3)	127 (61.7)
27	29 (14.6)	48 (24.2)	121 (61.1)
23	58 (32.2)	15 (8.3)	107 (59.4)
29	60 (21.9)	55 (20.1)	159 (58.0)
46	45 (18.9)	60 (25.2)	133 (55.9)
18	66 (24.4)	66 (24.4)	138 (51.1)
33	39 (24.2)	52 (32.3)	70 (43.5)
20	60 (25.5)	73 (31.1)	102 (43.4)

Note. 数値は、それぞれのカテゴリに対する回答度数を示す。()の中の数値は、相対度数(各カテゴリの回答度数/すべての回答度数×100)を示す。

④ 実施要件

先述したように、実施要件については、配慮の容易さについての質問の評定が1～2点の人—配慮の実施が難しいと感じている人—に回答を求めた。それぞれの配慮の項目において、実施要件の各カテゴリに対する回答度数、及びその相対度数（各カテゴリの回答度数/すべての回答度数×100）を配慮項目ごとに算出した。表4には、その結果を示した。例えば、項目47（「作業がしやすいように、大きめの机を用意したり、立って作業できる場所を設定したりする」）についてみると、カテゴリ1（空き教室、支援機器、その他の備品や設備などの物的条件の整備があれば実施することができる）に回答した人は、214名、カテゴリ2（教材の準備などの時間的条件の整備があれば実施することができる）に回答した人は34名、カテゴリ3（ITなど人的条件があれば実施することができる）に回答した人は23名、カテゴリ4（保護者や児童、管理職、教員等の共通理解があれば実施することができる）に回答した人は43名、カテゴリ5（1～4の条件を整えても通常の授業の中では難しいが、通級指導教室や放課後の個別指導であれば実施することができる）に回答した人は30名で、その相対度数はそれぞれ62.2%、9.9%、6.7%、12.5%、8.7%であることがわかる。これは、実施が難しいと感じている学級担任の62.2%は、空き教室、支援機器、その他の備品や設備などの物的条件の整備があれば、項目47の配慮を実施することができることを意味している。

表4に示すように、68項目のうち、カテゴリ1へ回答した人が多かった項目は9項目、カテゴリ2に回答した人が多かった項目は21項目、カテゴリ3に回答した人が多かった項目は27項目、カテゴリ4に回答した人が多かった項目は9項目、カテゴリ5に回答した人が多かった項目は0であった。このことは、配慮の実施が難しいと感じている人の多くも、何らかの条件を整えれば、通常の学級の中で配慮を実施することができる可能性があることを示している。

表4
実施要件の各カテゴリに対する回答度数

項目No	回答カテゴリ				
	1	2	3	4	5
1.「空き教室、支援機器、備品や設備などの物的条件の整備」の回答が多い					
47	214 (62.2)	34 (9.9)	23 (6.7)	43 (12.5)	30 (8.7)
23	151 (60.9)	35 (14.1)	24 (9.7)	23 (9.3)	15 (6.0)
66	142 (58.7)	20 (8.3)	25 (10.3)	27 (11.2)	28 (11.6)
33	197 (57.6)	8 (2.3)	65 (19.0)	50 (14.6)	22 (6.4)
22	114 (35.4)	17 (5.3)	31 (9.6)	107 (33.2)	53 (16.5)
58	158 (35.3)	48 (10.7)	70 (15.7)	103 (23.0)	68 (15.2)
32	31 (34.8)	20 (22.5)	13 (14.6)	13 (14.6)	12 (13.5)
39	145 (31.5)	44 (9.5)	92 (20.0)	91 (19.7)	89 (19.3)
60	66 (31.4)	8 (3.8)	50 (23.8)	34 (16.2)	52 (24.8)
2.「教材の準備などの時間的條件の整備」の回答が多い					
35	24 (11.2)	143 (66.5)	35 (16.3)	5 (2.3)	8 (3.7)
31	12 (3.6)	209 (62.4)	65 (19.4)	10 (3.0)	39 (11.6)
55	23 (11.1)	127 (61.4)	41 (19.8)	4 (1.9)	12 (5.8)
57	18 (10.8)	102 (61.4)	28 (16.9)	8 (4.8)	10 (6.0)
38	0 (0.0)	19 (61.3)	5 (16.1)	5 (16.1)	2 (6.5)
67	11 (7.7)	82 (57.7)	38 (26.8)	2 (1.4)	9 (6.3)
65	4 (3.1)	73 (57.5)	39 (30.7)	3 (2.4)	8 (6.3)
62	12 (4.4)	142 (52.4)	80 (29.5)	12 (4.4)	25 (9.2)
46	29 (13.6)	104 (48.8)	47 (22.1)	14 (6.6)	19 (8.9)
45	21 (6.2)	162 (47.9)	115 (34.0)	19 (5.6)	21 (6.2)
25	3 (4.1)	35 (47.3)	25 (33.8)	0 (0.0)	11 (14.9)
68	20 (10.2)	87 (44.4)	68 (34.7)	7 (3.6)	14 (7.1)
40	10 (8.7)	51 (44.3)	29 (25.2)	9 (7.8)	16 (13.9)
59	28 (21.5)	56 (43.1)	37 (28.5)	2 (1.5)	7 (5.4)
4	48 (19.4)	105 (42.5)	52 (21.1)	10 (4.0)	32 (13.0)
5	6 (8.0)	31 (41.3)	27 (36.0)	4 (5.3)	7 (9.3)
9	5 (3.1)	66 (41.0)	62 (38.5)	11 (6.8)	17 (10.6)
27	31 (11.2)	111 (39.9)	103 (37.1)	10 (3.6)	23 (8.3)
30	5 (3.5)	56 (38.9)	54 (37.5)	19 (13.2)	10 (6.9)
49	24 (9.4)	96 (37.5)	53 (20.7)	50 (19.5)	33 (12.9)
10	6 (4.8)	42 (33.9)	39 (31.5)	11 (8.9)	26 (21.0)
3.「ITなど人的条件」の回答が多い					
16	4 (3.0)	13 (9.8)	96 (72.7)	10 (7.6)	9 (6.8)
14	3 (4.5)	6 (9.0)	45 (67.2)	5 (7.5)	8 (11.9)
26	16 (7.1)	29 (12.9)	150 (67.0)	26 (11.6)	3 (1.3)
19	1 (5.3)	3 (15.8)	12 (63.2)	0 (0.0)	3 (15.8)
34	28 (16.8)	16 (9.6)	101 (60.5)	16 (9.6)	6 (3.6)

項目No	回答カテゴリ				
	1	2	3	4	5
21	16 (11.7)	15 (10.9)	77 (56.2)	9 (6.6)	20 (14.6)
18	14 (8.0)	45 (25.7)	92 (52.6)	10 (5.7)	14 (8.0)
41	4 (2.8)	37 (25.5)	74 (51.0)	7 (4.8)	23 (15.9)
3	3 (5.1)	8 (13.6)	30 (50.8)	9 (15.3)	9 (15.3)
63	6 (7.1)	4 (4.7)	43 (50.6)	23 (27.1)	9 (10.6)
20	8 (3.5)	75 (32.9)	114 (50.0)	8 (3.5)	23 (10.1)
24	1 (4.2)	3 (12.5)	12 (50.0)	4 (16.7)	4 (16.7)
54	4 (5.6)	18 (25.0)	36 (50.0)	2 (2.8)	12 (16.7)
44	2 (3.4)	15 (25.4)	28 (47.5)	2 (3.4)	12 (20.3)
7	8 (3.7)	2 (0.9)	102 (47.2)	65 (30.1)	39 (18.1)
2	2 (1.4)	42 (29.8)	65 (46.1)	2 (1.4)	30 (21.3)
1	0 (0.0)	1 (4.2)	11 (45.8)	3 (12.5)	9 (37.5)
29	11 (7.1)	26 (16.7)	71 (45.5)	15 (9.6)	33 (21.2)
28	2 (5.9)	4 (11.8)	14 (41.2)	12 (35.3)	2 (5.9)
56	2 (3.0)	21 (31.3)	27 (40.3)	1 (1.5)	16 (23.9)
52	2 (11.1)	6 (33.3)	7 (38.9)	2 (11.1)	1 (5.6)
36	6 (6.3)	32 (33.7)	36 (37.9)	2 (2.1)	19 (20.0)
51	6 (6.9)	29 (33.3)	32 (36.8)	7 (8.0)	13 (14.9)
6	0 (0.0)	7 (25.9)	9 (33.3)	6 (22.2)	5 (18.5)
53	25 (9.0)	75 (27.0)	85 (30.6)	36 (12.9)	57 (20.5)
50	1 (3.0)	8 (24.2)	10 (30.3)	9 (27.3)	5 (15.2)
48	17 (19.5)	13 (14.9)	22 (25.3)	18 (20.7)	17 (19.5)
4.「休園台、元里、百理職、教員寺の共通研修」の回答が多い					
17	13 (12.5)	6 (5.8)	9 (8.7)	73 (70.2)	3 (2.9)
43	4 (7.1)	8 (14.3)	6 (10.7)	35 (62.5)	3 (5.4)
8	2 (1.7)	23 (19.8)	14 (12.1)	66 (56.9)	11 (9.5)
61	0 (0.0)	5 (10.0)	5 (10.0)	26 (52.0)	14 (28.0)
37	2 (1.8)	24 (21.2)	14 (12.4)	58 (51.3)	15 (13.3)
15	4 (3.8)	10 (9.5)	29 (27.6)	52 (49.5)	10 (9.5)
11	44 (32.8)	25 (18.7)	13 (9.7)	48 (35.8)	4 (3.0)
64	1 (5.9)	4 (23.5)	5 (29.4)	6 (35.3)	1 (5.9)
12	4 (8.9)	5 (11.1)	11 (24.4)	14 (31.1)	11 (24.4)
その他					
13	3 (8.8)	6 (17.6)	9 (26.5)	7 (20.6)	9 (26.5)
42	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	2 (22.2)

Note. 数値は、それぞれのカテゴリの回答度数を示す。()の中の数値は、相対度数(各カテゴリの回答度数/すべての回答度数×100)を示す。

(4) まとめ

この調査の結果の概要は以下の通りである。

- ① 配慮の内容によって、実施の容易さは異なっていた。
- ② 学級担任が実施しやすい配慮の内容は、学級の活動に対する動機付けを高めたり、適切な行動を促したりするもので、また、それは、全ての児童を対象として、あるいは学級全体に対して行われるようなものであった。それに対し、実施が難しい配慮の内容は、新しい教材の準備や設備／備品、または支援の個別化を必要とするものであった。
- ③ 配慮の実施が容易と感じている学級担任は、多くの配慮項目を個別にではなく、全ての児童を対象として実施していた。
- ④ 新しい教材の準備や設備／備品、支援の個別化を必要とする配慮については、実施が容易と感じている学級担任の多くも実際には実施していなかった。
- ⑤ 配慮の実施が難しいと感じている人の多くも、本調査で取り上げた物的条件、時間的条件、人的条件、あるいは共通理解の条件のいずれかの条件を整えば、通常の学級の中で配慮を実施することができることが示された。

本調査の最も重要な見解は、②に示したように、学級担任が、実施が容易、あるいは困難と感じている配慮の内容の特徴を示したことである。より良い支援を提供していくためには、さらに、これら2つのタイプの配慮について以下のようなことを検討していく必要がある。 (a) 学級担任が容易と感じている配慮、つまり、学級全体に対して行われるような配慮は、LD等の子どもの個々人のニーズに対してどの程度効果的なのかということ、 (b) 学級担任が困難と感じている配慮を実施していくために、新しい教材の準備時間や設備／備品、支援の個別化、あるいはそのための学級担任の知識やスキルをどのように確保していくのかということである。

(玉木宗久、海津亜希子、小林倫代、佐藤克敏)